

いとしの サブカル

1冊の本から パーティが始まる! 新しい「読書会」について

「猫町倶楽部」アシスタント

やまもと なおふみ

山本 尚史

名古屋市在住。読書会サークル「猫町倶楽部」の名古屋アシスタントを務める。イベントの企画・設営の他、月に1度行われる読書会参加者のためのクラブイベント「コアタイムリポート」を開催。

突然ですがあなたは「読書会」と聞いて何を連想しますか？ みんなで集まって本を読む？ それぞれが好きな本を持ち寄って紹介する？

もちろんそれらも確かに「読書会」ですが、今回お話をさせていただくのは別の形、「全員であらかじめ同じ本を読了してきてその内容について語り合う」読書会のことです。

「本は一人で楽しむもの」「本の感想を人に言うなんて恥ずかしい」と思われる方もいるかもしれませんが。それもごもっともです。

でも、考えてみてください。子どもの頃から本が好きだったあなたが大人になって暮らしていく中で、職場や友人に本の話をする人はいますか？ ましてや同じ本を読んでいて、そのことを共有できるなんて奇跡的な確率ではないですか？ 読書会ではなんと、あなたが読んだ本を他の参加者も読了してきているのです！

6～8人でテーブルを囲み、本を読んで理解したことや感じたことを話し、他の参加者の話を聞き、自分一人では気付けなかったことを理解する。それだけでなく、なんとなく感じてはいたけれど言葉にできなかったモヤモヤも、アウトプットすることで形に出来ることもあります。

申し遅れましたが、私はここ名古屋が発祥の読書会サークル『猫町倶楽部』でアシスタントスタッフをしている山本と申します。

猫町倶楽部では名古屋だけでも月に5～6回、東京や大阪などの他地域も合わせると毎月20回前後の読書会を開催しています。扱う本は古典から現代、文学からビジネス書・哲学・アートまで多岐に渡りますが、大枠としては「名前は知られているけどなかなか手に取る機会のない」基礎教養的な作品など、少し読了難度の高い本が多いです（とはいえ現代のエンタメ作品を扱うこともあります）。

こう書くとハードルが高く思われるかもしれませんが、けて知識や正しさをぶつけあう高尚な会ではありません。「他人の意見を否定しないこと」がマナーであり、たった一つのルールです。読書はヘビーに、読書会はライトに楽しく意見交換を行っています。参加者は二十代後半から三十代の方が中心ですが、老若男女を問わない生涯学習の場でもありたいと考えています。

また、猫町倶楽部の読書会には他で開催されている読書会とはおそらく少し違った思想があります。それは「読書会とはパーティでもある」ということです。読書を通じて新しい世界や人と出会い、交流し、メイン・サブのジャンルを問わずあらゆるカルチャーを横断的かつ教養的に楽しみながら身につけ、新しい扉を開いて人生を豊かにしていくこと。それが可能な会であることを信じて運営しています。

通常読書会の他にも、本と同じように課題映画を観てきて感想を語り合う会や、美術館でのレクチャー、最近ではクラブイベントや、愛知県芸術劇場とコラボしてのコンテンポラリーダンスのイベントなども行いました。

あなたも猫町倶楽部の読書会で、新しい世界の扉を開いてみませんか？

